

日本政治はどうなるか

朝日新聞特別編集委員

星 ほし

浩 ひろし

- *憲法論議の焦点は72年の政府見解
- *ピントが外れていた安倍首相の説明
- *アメリカが歓迎する理由
- *具体性が欠けた安全保障論議
- *中国に対する全体戦略が見えない
- *軍事技術の進化との間にある違和感
- *逆風下で安倍首相は改革を断行出来るか
- *中立性が消えた霞が関官僚
- *様々な参議院選挙対策が始まる
- *民主党は今こそ長い目で政策練磨を



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

ちょうど1年ぶりぐらいになると思いますが、星さんに来ていただきました。安保の国会がいちばんピークのときでございまして、今日もまたたいへんお忙しいようで、時間をさいておいていただきました。今の安保法案の問題、それから自民党、野党をめぐるさまざまな政治状況、無投票当選した安倍政権の今後の行方、その他につきまして、生の情報に基づいて有益な情報を今日はお聞かせ願えると思います。

それではゆっくりお聞きください。どうぞよろしくお願いたします。（拍手）

星 皆さんこんにちは。ご紹介を受けました朝日新聞の星でございます。

星 非常にいいタイミングとか、悪いタイミ

ングとか、今も国会に寄ってまいりましたが、今日もまたデモが集まりまして、私たち若干、年上の団塊の世代の方たちが非常に張り切って、今日などはジョギングをしながら「安保法案反対」とかいいうマークをつけている人もいました。半分遊んでいるんじゃないかという気もしますが。国会はヤマ場になっておりまして、昨日、参議院の委員会でも強行採決がありまして、安倍首相への問責決議を出すとか、内閣不信任案がもうすぐ衆議院のほうに出るとか、緊迫しています。それで、民主党の岡田さんが趣旨説明をして、枝野幹事長が賛成討論、それから自民党が反対討論をします。枝野さんは例のフリーバスターと言いまして、長時間討論で体力の続く限りやるみたいなことを言っ